



あおぞら

株式会社 ひこうせん

2018年 4月19日 第134号

〒263-0012

千葉市稲毛区菟台町 632-40

TEL 043-290-8778

FAX 043-290-8779

発行者 木村伊佐

手作り桜もち

今日は桜の季節になると食べたくなる桜もちを手作りして春を楽しみたいと思います。

おやつ時間が近づきリビングに集まってきた皆さん、ホットプレートを見て「何が始まるの?」と不思議そう。「桜もちを作ろう!」という「わぁ初めて!」と、目を輝かせて喜んでくれました。(毎年お馴染みの皆さんです)

エプロンをつけて粉を混ぜる係、餡を丸める係と役を決めると、二人共かなりアバウトでハラハラ見ていると予想通りに空気が淀みはじめ、丁々発止のやり取りが続く、更なる強豪も参戦し(笑)皆さんの桜もちに寄せる熱い想いを感じる事ができました。焼き上がったクレープ状の皮でクルクルと餡を包み葉を被せると、出来栄えにかなりの差がでてしまい、一番写真映えする桜もちを選んで一人ずつ記念写真を撮っている、その一番美しい出来栄えの桜もちが自分を作ったものだと言った方が始まり。今年はずっと塩味の効いた桜もちが出来上がったのでした。



節分会・豆まき

立春とは名ばかりで梅のつぼみもまだ硬く春をひたすら待ちわびる毎日、今日は節分会、鬼を誰にするかと悩みながら、思い切った主任二人と私の3人鬼で頑張る事にしました。

野口主任と私はどちらが青を、赤を着るか、顔映りはどちらが良いかと2色の鬼衣装に顔を合わせ、カラー診断会をして臨みました。(どうでも良いことですが、一人が何色を着たのかご興味のある方はお写真でご確認下さい(笑))

さあ豆まきの始まりです。鬼の登場を待ちわびる皆さんの前に現れた私たち、宮階主任は豹柄パンツを忘れたい姿勢で登場してしまい慌てて戻るハプニング。

「鬼がキターッ」と喜び勇んで豆を投げる人、「困ったなあ投げられないや」と、豆をポリポリ食べ始めた人、驚きながらも握手を求めてくれた人、豆まき会は例年通り笑い声に包まれた楽しい会になりました。



節分会・恵方巻

節分に「恵方巻」が定着して40数年、始まりは関西から、「節分の巻きずし」「幸運の巻きずし」と言われ後にセブンイレブンが出した商品名「恵方巻」の名が全国に知れ渡ったそうです。

午後のおやつに合わせて恵方巻づくりを始めました。具材は七福神にちなんで7種類、大皿に盛りテーパーの中央に綺麗に並べ、一つ一つの具材を読み上げて「7種類入れましょう」と話し自由制作の時間へ。

手際よく巻きずしで巻き始めたものの、具材がはみ出し海苔が合わせられない人がちらほら。どうやら卵焼きを2本人れた豪華巻きのようなです。スタップが懸命に押し込んで巨大巻きの出来上がり。

今年の恵方は南南東、一斉に食べ始めた皆さん、巨大巻きは途中で崩れながらも健闘し、10人の方が1本完食されました。今年も皆さんに幸せが訪れますように。

春・随想

冬の厳しい寒さを越え、駆け足でやってきた桜の季節も終わり、桜並木は既に新緑となりました。

思い起こせば、お元気に新年を迎えることができて皆さんと喜び合った1月、節分会では、豆まきを楽しみ恵方巻きを作り、梅の開花を心待ちにしていた2月、ここまでは例年通り順調にきていましたが、中旬からインフルエンザに見舞われ、一人また一人と寝込み、半月に渡り14名の皆さんが罹患する事態となりました。

「あの時」を振り返ってみても、毎日どのように仕事をし、いつどなたを病院にお連れしたのか、自分はいつ寝て何を食べていたのか、思い出せない程多忙を極め「無我夢中」とは「あの時」の事を言うのかと、この歳になって初めて言葉の意味がわかったような気がします。

最後の罹患の診断を受けた方はお雛祭りの日でした。

皆さんと一緒に作った3月1日開設13周年祝いの桜のオブジェが折れそうな自分の心を勇気づけてくれました。大奮闘してくれたスタップの皆さん本当にありがとう。インフルエンザが終息した頃、リビングから皆さんの笑い声が聞こえてきた時に、「幸せ」とはこういう何気ない日常のことなのだと思えて気がつかされ涙が込み上げてきたのを思い出します。

時は流れ、新年度になりました。6年に1度重なる医療と介護報酬のダブル改定の年となり、介護サービスの中身も変わりました。

団塊の世代が75歳以上になる「2025年問題」に向けて「自立支援」や「重度化防止」に取り組み、その効果を評価し、7年後に増大する介護費用の抑制につなげようとする準備が始まりました。

ひこうせんでは改正を受けて「食べる力」の維持向上のために歯科医・安藤先生からのご指導を強化し「口から食べる」事に重点を置いていきます。

また、往診医・福富先生のお力添えを頂きながら「低栄養」若しくはその心配がある方への「食支援」を行う栄養サポートも始めていきます。

ご家族の皆様「1日も長くひこうせんで暮らすことができますように」という願いにお応えできるようスタップと力を合わせ頑張っていきたいと思っております。14年目のひこうせんをどうぞよろしくお願致します。

